

専攻科芸術専攻「美容芸術研究」への授業取り組み

～芸術専攻修了作品展について～

Graduation Works from the *Study of Aesthetics* Program of
the Advanced Course of Arts

富田 知子¹⁾ 菊池 信二²⁾ 栗本 佳典¹⁾

酒井 朋恵¹⁾ 吉川 奈菜子²⁾

抄録

専攻科芸術専攻は、本学で美容師免許を取得した後、芸術と美容を学ぶ専攻である。現在、人の営みの中で美容は大きな存在になっている。芸術は人の心を表現するものとするれば、美容もまた芸術であろう。現代の社会の中で美容のあり方は芸術のそれと同じように多様である。そのような中、本学の名称の一部にもある「美容芸術」を模索し体現するため、2014年度初めて、一年を通し美容を軸として作品を作り、学外の空間で展示を行った。

キーワード：美容 リンクブック メイク・アート ヘア・アート 作品展

I. 緒言

専攻科芸術専攻が設立され7年目になる。芸術専攻で学ぶ学生は短大2年で美容技術、美容理論等を学び、本学の特徴でもある美術を取り入れ、バランス感覚、色彩感覚を養い美容師となって進学してきている。芸術専攻では、やはり他の美大とは大きい違いがある。それは美容を軸としているという事である。しかしそれは単に短大の延長では無く、アートの方向から美容を眺め、模索し、体現するのである。美容は古くから人の営みのなかで、人の心のあり方、社会のあり方を表現する手段であった。表現の手段として美容技術を用いる。これは手段に縛られるという事ではなく、表現の手段として用いる事で、表現による必要性がその手段の限界を広げていくと考えられるのである。この事は美容の方向性を広げる可能性も含んでいる。本年度は、これらを踏まえ、これまで各授業でおこなっていた内容を見直し、関連付け、一つの作品に繋げる制作を行い、最終的に一つの空間に展示を行う事を「美容芸術研究」のテーマとして行った。

II. 授業内容と方法

専攻科芸術専攻学生のための学外で行う作品展は、初めての試みであり、前例が無いので、1年次の時点で参考になる展覧会「100HEAD PIECES KATSUYA KAMO」(2013年ラフォーレミュージアム)を見学し、展覧会のイメージをもつことが出来るように工夫した。授業を進める上で、前期授業、「美容デザイン演習(菊池担当)」と「スタイルドローイング(富田担当)」で関連づけた授業をおこなった。これらの授業成果作品は、後期の美容芸術作品研究で行う立体作品(人形の頭部を使用した作品)のコンセプティックな作品となる。指導は授業担当の菊池、富田に加え、酒井、吉川が加わり、随所に専攻主任である栗本が加わり展示に至るまで指導を行った。

①前期「美容デザイン演習」(菊池担当)：アール・ヌーボー、アール・デコの特徴的なデザインの持つ形状を知ることから始める。この事は全体の大きなテーマとなる。学生は2つの様式の内1つを選択し、そのイメージソースを収集する。それらを基盤とし、自分なりの解釈を加えブランディングを行い、ロゴのデザイン(写真1)、メイクデザインと進む。メイクデザイン

1) TOMITA Tomoko KURIMOTO Yoshinori
SAKAI Tomoe

山野美容芸術短期大学
連絡先:〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530

2) KIKUCHI Shinji YOSHIKAWA Nanako
山野美容芸術短期大学非常勤講師

はウィッグに行き、撮影を行った。(写真2)。ここで使用したウィッグはこのメイクのみに使用。(使用済みのウィッグの顔部分のみを使用)



写真1, ロゴデザイン例

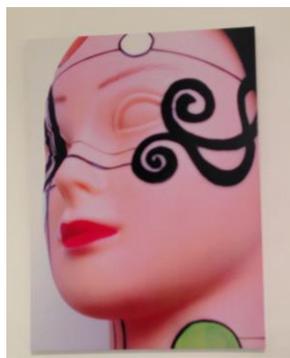


写真2, メイク作品例

②前期「スタイル・ドローイング」(富田担当):まず、最終的には展示を念頭に置き授業を進める為、現在美容師として活動しながら、アート作品を発表し続けている専攻科の卒業生國友氏による展示についてのレクチャーを行った。その後、リンクブック(富田、保高制作)を用い、其々の思う「美」を、具体的に言葉からコラージュ、コラージュからデッサンへとすすめた。

ここで授業「美容デザイン演習」との共同テーマである、各自選択したアール・ヌーボー、アール・デコどちらかを軸として、女性の頭部を軸に「自分の思う美」として改めて構成し、平面作品を制作した。作品サイズはB1サイズのパネルを使用。この授業での平面作品は、先に記したように、後期の立体のコンセプトを表すものである。表現技法については自由とした。アクリル、油彩、コラージュ等技法の幅が見られた。前期最終回は作品のプレゼンテーションを行った。



写真3



写真4

写真3, 4「スタイル・ドローイング」制作風景

③後期「美容作品研究」(富田担当):前期の作品をもとに、美容技術練習用ウィッグ(頭部人形)及び発砲スチロール製人頭を用い作品を制作した。

毛髪のあるウィッグを使用した場合、ヘアカラーを

調整するため脱色後、酸性カラー剤等を用いた。毛髪の長さが足りない場合は叢毛(毛髪を束ねたもの)を使用した。しかし、今回の作品は毛髪を使用することは規定せず、自由な素材によって頭部を造形することを目指した。その理由としては、毛髪による造形では表現出来ないものがあると考えたためである。通常ヘアスタイルで使用される場合、デザインのポイントとなる「アクセサリ」も既存のものは使用せず、自身で制作した。その一例として、酒井教員が技法の例として技術展示を行った。アメリカンフラワーで使用するワイヤーとアクリル樹脂に、エアブラシで着色をした造形作品である。(写真5~8)



写真5



写真6



写真7



写真8 使用例

展示:会場は若手作家の発表の場であり、本学の卒業生も多く利用する「デザインフェスタギャラリー」で行った。(2015年2月6日~8日)

ウィッグの展示については、以前教員が美容作品展を行った際に作成した金属製展示スタンド(富田考案)と今回の為に作成した木製のスタンドを用いた。スタンド素材は作品に合わせ、学生が選択した。

展示方法は、壁面にベースになる平面及びロゴデザインと、メイクデザイン写真をパネルにしたものを展示し、それに対面する形でウィッグ作品を展示したイン

スタレーション的な空間構成にした。(写真9~10)
 作品展のダイレクトメールとポスターについては菊池が学生の作品をもとに、構成デザインをおこなった。
 (写真11)

III. 考察

今回初めての試みとして、外部での作品展をおこなったことで、学生達と共に教員も多くの事を経験することが出来た。作品制作においては、素材や技法が自由であることで、学生達は初め戸惑いを見せたが、美容そして女性美という枠のなかにあっても、結果的に幅の広い作品群となった。外部で展示をするということで、美容を学ぶ人以外の一般の方にも説明を行うことを経験したことにより、さらに自分にとって美容表現とは何かを考える機会にもなったと考える。展示という方法により客観的に自分の作品を見る事、空間の構成や空間の把握という美容師が人物を意識する上で重要な要素を学ぶ事が出来たのではないか。学生の感想を後に記載するが、そこでも貴重な経験をした事が伺える。反省点として、制作に時間がかかり、展示間際に完成した作品も少なくなかった。素材についても、より多くの例を提示することにより、学生自身が多くの可能性を見いだせたのではないか。制作過程で自分の展示をどのようにするかという点についても意識させることで、より平面と立体作品の関連付けが出来たのではないか。以上のことを踏まえ、次回に繋げていきたい。



写真9, 展示風景手前より



写真10, 展示風景 奥より

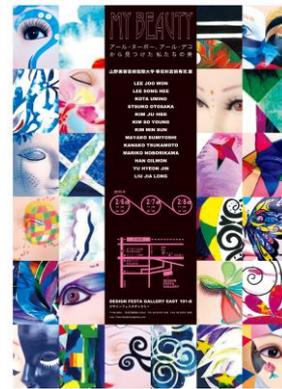


写真11, 展覧会ポスター:

美容デザイン演習作品群(菊池作成)

IV. 学生による作品コメント及び展覧会感想

- ① イメージまたはテーマ
- ② 平面作品のどの部分をヘアスタイルに表現したか。
- ③ 其々の作品でこだわった部分や苦労した部分について
- ④ 展覧会を行った感想
- ⑤ 平面作品群及び立体作品

李 周垣

- ① DARM
- ② 人間の両面性を表現した黒と白の色、天使の羽と光をヘアスタイルに表現しました。
- ③ 全体的にイメージを作るのに苦労しました。また、立体を作るときに羽のところが思ったとおりに固定ができなくて時間がかかりました。髪の毛ではなくイメージでウィッグを表現したので、光と羽のところにこだわりました。
- ④ 自分の作品の展示は初めての経験でした。しかし、ご来場いただいた方々が自分の作品をよくご覧下さり嬉しく感じました。展示会をするための作品作りや展示会のやり方などを知り、すごく勉強になり、やりがいがありました。また、自分の作品だけではなく、共に学んだ友人の作品も一緒に展示したので楽しく、卒業の前にいい思い出ができました。先生方と学校に感謝します。

⑤



李 諒熙

- ① 万華鏡
- ② 紫と青をベースにしたアール・ヌーボーのヘアスタイル
- ③ 背景は万華鏡を覗いたように表現するために銀色の紙をひとつひとつ貼ったこと。平面作品を実際ヘアスタイルに表現するのが思った通りにできなくて時間がかかったことです。
- ④ 全員の作品を展示し、平面作品とウィッグの立体作品等が響き合い迫力のある展示になり嬉しく感じました。
- ⑤



丸くなっている髪の毛の部分表現しました。

- ③ ほのかな光を出すために電球を埋め込む事や、目を強調するためにまつ毛に色をつけることや、ヘアに丸みを持たせて長さや量を出すことや、全体的に暗い雰囲気を出すために顔と髪色を暗めにする事にこだわりました。
- ④ 展示会を行って色々な方の意見を聞く事ができ、自分の作品について振り返ることができたのでよかったです。この機会のおかげでひとつの作品にこだわることの楽しさや自分の理想を立体にするこの大変さがわかりました。
- ⑤



海野宏太

- ① peace dry
- ② 全体的なフォルムも柄も全て平面に近づけて表現しました。
- ③ 手が口から出るところを表現するのに苦労しました。あとは肌の色を綺麗にしすぎず調整するところを工夫しました。
- ④ 初めて展示会というものをして、自分の作品や友達の作品が受け入れられるのを直接見ることができ、嬉しかったです。
- ⑤



金 主熙

- ① アール・デコ
- ② オールウェーブの作画的なウェーブによって、アール・デコを表現しました。顔にも線を星形に分割する事で無機的な動きを表現しました。
- ③ ウェーブの表現と顔の星がなかなかうまくいかなかったのが大変でした。
- ④ 全員一緒に展示会をした経験がとても良かったです。時間的な心配やうまく仕上げられるかなどの不安はありましたが無事に終わりました。いい作品を作れたのは先生方がそばにいてくださったからこそです。今回の展示会でいろいろ勉強になりました。
- ⑤



乙坂悦子

- ① アールデコ・テーマ： 蛍
- ② 蛍のほのかな光、暗い雰囲気と蛍の虫かごの飾り、

金 倭英

① Dream Exit

② 絵の下のところに落ちた涙がどんどん大きくなります。実は、一番大きくなった涙の中に夢の国のような幸せなイメージを描きたかったのですが、全体的にうるさくなりそうな気がして、その部分は立体で表現することにしました。全体のシルエットは大きい涙の形で、明るくて夢のようなカラーで、平面では表現できなかったことを表現しました。

③ 平面は、背景に大きい丸が3つありますが、円の色を塗ったとき、紙が水の影響で伸びてしまい、乾くまですごく不安でした。でも、乾いてみると意外と効果的な表現になりました。立体はパーマをかけることに苦労しました。後は色の組み合わせが大変でした。

④ 展示会を行いながら、いろんな方から多くの意見を頂きました。自分の頭の中、心の中のことをうまく表現することも大事ですが、それを見る人にも共感できるように表現することも考えなければいけないと思いました。展示会前まで不安でしたが、やればできるものだと思います！

⑤



金 咬宣

① アール・ヌーボーマーメイド。海の中の魚のヒレや海草のゆらゆら感をイメージ。

② 平面作品に描いた曲線を基本にして表現した。飾りは魚のヒレのように制作いたしました。

③ マーメイドをイメージしたので、単純な曲線ではゆらゆら感が表現できませんでした。あと、表面作品を立体にすることに苦労いたしました。

④ 自分の作品を来場者の方々が興味深そうに見てくださることがとても嬉しく感じました。人それぞれの好みがあるので全員反応は違いましたが、それ自体がすごくいい経験だったと思います。

⑤



住吉 麻耶子

① イメージ 一面葉っぱが散っていて螺旋階段が上の方に続いていき、木も上に伸びていっているイメージにしました。

② 平面作品でのどの部分をスタイルに表現したか 髪の毛は葉っぱのつるをイメージし、上に伸びている様子を表現しました。

③ 作品でこだわった部分、苦労した部分 螺旋階段を発泡スチロールでつくったところや、螺旋階段の手すりをアール・ヌーボーにしたかったのでうねうねとさせてつるのようにしました。ウィックの作品は葉っぱをつくり髪や台に散らばせました。

④ みんなの作品が完成するかぎりぎりまで不安でしたが、ちゃんと作品が揃って良かったです。配置も最終的に見やすく綺麗でした。来てくれた方にわかり易く説明するのは難しかったのですが、普段出来ない事なのでそういった体験が出来てよかったです。今回は一回しか出来なかったですか、1年の時と2年の時で2回とか3回とか定期的に来るのもいいと思いました。

⑤



塚本 佳菜子

① 七夕の夜、海から天の川を見上げる人魚

② 海の中で貝殻がキラキラしている感じと、天の川の星空のキラキラした感じをヘアで表現いたしました。

③ 平面、立体を通して、たくさんのビーズを使用しました。箇所により、ビーズの種類や色を変化させる

等、細かい所にもこだわりました。

- ④ 学外で、自分の作品をみて頂くのは初めてでした。作りながら真近で見ているのと、実際に飾った時ではイメージが変化して見えたが、自分なりに納得のいく作品が出来て良かったです。学生最後に思い出に残る作品を作る機会を下さった先生方に感謝いたします。

⑤



登川 真理子

- ① 沖縄の海、空、自然と紅型をイメージしました。
 ② 沖縄の伝統的な衣装の琉装の時の髪型、「からじ結い」と平面作品に描いてあった花をたくさん使い沖縄の明るさをイメージしました。メイクも鮮やかな色を使い、花をイメージして描き、その上からヘナタトゥーの花のデザインを描いて華やかさを表しました。
 ③ 平面作品は色や配置のバランスを気かけながら描きました。あと、どうやって沖縄を表現するのかもすごく悩みました。ウィッグ立体作品も実際初めて「からじ結い」をしたのですごく難しかったです。
 ④ 初めて自分の作品を知らない人に見てもらえる機会だったので、いい経験だと思いました。終わってみて、もっと出来ることがあったとすごく思いました。こういう機会をいただき、有難うございました。

⑤



韓 侑原

- ① ミラーボールを描いてアール・デコを表現し、キラキラ輝く夜と昼のイメージを表現しました。
 ② 平面作品に描いたミラーボールの形ときらきらするイメージを表現しました。
 ③ ミラーボールの色の配列と正確に線を描くことと、花の色も両方雰囲気に合わせて色も違うようにしました。
 ④ 普段なかなかできない経験ができてとても楽しく、経験だけでなく卒業前にみんなでいい思い出がつくれるようになって嬉しかったです。

⑤



柳 賢陳

- ① アール・ヌーボー、炎のイメージ
 ② 髪の毛を炎のイメージで表現しました。
 ③ 炎のイメージを伝える事が大変でした。色の選択にも試行錯誤しました。ウィッグでは髪の毛を炎のようなヘアスタイルに近く表現するのが難しかったです。
 ④ 全員で展示会を行えたことがよかったです。このような貴重な機会をもつことが出来たのは素晴らしい経験でした。

⑤



劉 嘉隆

- ① 伝統美と現代進化
 ② 日本の象徴的なイメージを表現しました。
 ③ 紙粘土を使用し頭部を作成しました。制作の過程で表面に亀裂が入り着色に苦労しました。

④ 自分の作品が展示出来た事と共に、来場者が、自分の作品の前に立止まり 写真を撮る等、真剣に見て頂けたことが本当に嬉しく感じました。

⑤



V. 謝辞

今回の作品展の開催にあたり、山野愛子ジェーン先生を始め、多くの方のご指導ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。